

山人風来

里能却々

全



13特
2132
3



里乃をてま記評自序

莊子^{まい}の^ど寓^{あや}言^{ごん}は^あ武^ぶ部^ぶが^が筆^{ひつ}ぞと

み^み司^し馬^ま相^{さう}如^{じゆ}が^が子^こ虚^{きよ}鳥^{ちゆう}有^う弘^{こう}法^{ぽう}

大^{だい}師^しの^の兔^う角^{かく}龜^き毛^{まう}去^きり^りと^とそ^そハ

ク^く—[—]物^{ぶつ}あり^り予^よに^に亦^{また}彼^{かの}虚^{きよ}云^い子

Red square seal impression with characters.

Red square seal impression.

なほひひ氣流志れぬ麻布先生。
古遊花景乃人物を設く訛
八百を書らる針を持
いし火を以く水とをるハ家
持まへの滑稽あり文の餘情の

譎言あり或は流流地名あんどハ
人の耳馴る便で直其名を
せぞと因ゆり物語なれば寧ろ
はり流るまは河ぐ又人怪げ
安本元年手狐乃らる秋

さきバ緒おと一ことき緒なご子。牛うしの牛うし連つるハ馬うま連つ回まわ氣き
お求もとめ回まわ氣きお茶ちやの習ならひにこ古ふる梅うめ教しよ人ひととしる
志こころれもの殊ことごと異ことごとれ見み舞まはありしお茶ちや廟やしろ
布ぬい先生せんせい乃すなは門かど人ひと花はな系けいとりりるる島しま世よ男おとこすま
柳やなぎううこ。四よ方かた乃すなはちものもの候さう三人さんにん茶ちやのの文ぶん殊じゆの
智ち恵えはとくとくををららそそろろくくとと理ことわりよよ入いるる例れい乃すなは
控かまへひのの魂たま膿うみ呻うめ。毛け象ぞう志こころうう川がは魚いしははくく

懐なつか中ちゆうううるる小せう冊さつをを言こと出だす。先せん生せい連つるも心こころ存ぞん有あま
ト。ああままくくとと吉きち原げん細こ見み乃すなはち一枚まいまい摺すり里りの緒いと環たま
といいふものあり。柳やなぎ成なり一ひと巻まきといいふふ。古ふる橋はし中ちゆう
下した樓ろう下した地ぢ鷹たか州しゆ化け一ひとくく堂どうとと候さう。今いま五ご丁てい
所ところ子こ笑わらをを争あらひひ全ぜん集じふいいるる方かた外ほか。京きやう
の倡うた妓ぎのの印いん戸と焼やきううららとと。それそれにに昔むかし乃すなは喩たと
茶ちや今いまぞ吉きち原げん深ふか川がはををととみみまませせ。ああののまま

梅様。種乃さのまい春見城^{サクラ}上^ノの有^ハべし
や。象一人看^ミせで甲^カきみ^ミ遊^ブく味^ア増^ス
と^レれ。右^ミに教^ス人^ノ熱^クす。彼^ノを^シま
き乃^ハ一枚^ノ摺^リ。白^クひ^キ所^ノも^モ黒^クひ^キ所^ノも^モ一^ツ面^ノ小^シ
液^ヲと^リて^シく^とと^シ海^ノの^ノ手^ノ切^リ吉^原
ま^どく^ク花^ヲま^どく^クある^ハ吐^キ息^ヲを^シひ^て中^ノ
々^ハあ^ハり^ハ笑^ハ止^ムある^ハを^シぬ^ルその^ハ我^ノ

日本^ハ不^レ五^ノ分^ノり^トし^クども。五^ノ穀^ヲを^シ儲^ケり^テ金^ノ浪^ヲ
多^クく^シる^ハ物^ニ半^クを^シ欠^クず。熱^ク花^ノの^ノ地^ノ志^ヲ
あ^ハし。京^ノよ^リ鴻^ノ原^ノ大^ノ坂^ノよ^リ新^ノ町^ノ長^ノ橋^ノ花^ノ丸^ノ山^ノ
と^リて^ハ。諸^ノ園^ノ乃^ハ危^ク里^ノか^クぞ^クそ^レし^ガぞ^ク。
各^ノ地^ノの^ノ風^ノ俗^ヲ互^ニく^シ伝^ヘせ^テも^モ面^ノ面^ノと^リて^ハ
あ^ハか^シ。有^ク中^ノに^シて^ハお^ハ江^ノ戸^ノの^ノ吉^原一^ツ
り^ハく^ハ二^ツの^ノあ^ハき^ム人^ノに^シて^ハある^ハと^リて^ハあれ

バそ更よしふぐぐなり。世上よて目ふまき量も
此里の女と競てくまいひの外にえかたけえ。近
き院披わ山下にくそんご茶谷とすは
ハ一匹の大評判。能くすば吉原まき何そ
しる女良ありしご。吉原子居内ハ本乃
十把一かけたて目ふまきとなし。
廊外くま（押出せ）掃溜しよぶらの落砂いさごの中なかに金かね。

飛ぶ茶釜乃堀出めんと大評判よ及一
なり。斯か吉原か女帝めいの傍はたれて宮ふらん也子
る。幼少せうとらうの青あおが。ま居振あふる舞まい舞まい
容よう才さい一氣いきを大たい切きら。兎うの時ときとら婦
女に此こ仕し込こえあるとあり。就中しゅちゆう中ちゆう古こ。
たま格子かぢに上品じゆんぴん小ありて。琴かみ三さん絃げんを
いふよ及およびず。清せい奇き餅もち糖とう香かう茶ちやの湯ゆ。碁ご

双六ちろひ碁方。何れの道みちに主しゅ客きやくかゝる。諸藝しよげい云々
を知して知しる。教しゆせむ。見識けんしき有ある。厚あつく付つく。
上方かみかたは女め良らなどの生なま似にてもる。ぬが吉きち
原はらあり。今乃いまさんちや付つ也や。一ひと心こころあ乃の
ちま格かく子こに者ものらず。きいささ地ぢ何なにり。風雅ふうが
何なにり。者ものたた一ひとななは藝げい術じゆつあり。ちま昔むかしの
風ふう義ぎ跡あと甲か古こ川がわ子こ水みづ路ぢを假かり令しよ善ぜん薩さつの

影かげ向むかあり。天人あまんとてんが天降あまくだてと負おぬが此こゝ地ぢ乃の
女め良らなり。長場ながばた前まへの賣う女めども。奴やつことらりて
あり。子こばばやちりかへ玉たま回まわあはり。一月ひとつき一ひと舞ま
八百やっぴやうツつで願ねが族ぞく何なにれと並ならぬ。さんさんとら松まつと
う名なをかへく。鬘かみ高たか傳たづね婢めかけににく傳たづねふぬ。
いつそ鉄炮てつぱう店みせへで色いろ追お下くだし。免許めんぎょの控ひか
前まへと園場うゑばた前まへ。八雲やくも泥どろ万まん里りの遠とほく方かたを

見せてこそ吉原ともいふべけれ。いふ末
世子成なばとて。毘場下の土娼むいぢやは子大生たいせいある
名を分わく。二人虎とらに容持ゆるぎあはれもあつけ
ぬた中。其癖くせ総けいこ舌か舌かを折あひる。家鴨あひるの
足あしどりみんりわやつり。髭ひげ徳とく偶ぐ中ちゆうの所ところれ人ひと之のに氣き
を毛け一いつくわん眩めくら持もちは乃のいざこざめんれいな
甲か。又下地げちかゝ吉原きちげんに居ゐる女おんな良よしとふい

なし。親方おんかたハ重おもきとれば。幽ゆう冥めいとぞま入いて
も高たかさせならありともい。ちちままハ毘
場ば下の土つち妓ぎ流りゆうとあ舞ま子こハ均ひと成なりいせんと
ははくくままばばおお淡たんななぢぢややるる。公こう苦くららりり。吉
原きちげん中ちゆうに智ち恵えがなく。女おんな良よし小こ氣きがなきな。
勢せい乃のどどくくりり成なりけし。割わり自みづか憐れんとと入い
小細こさい見みをを搦なくせ上じやう八はち恥ちををささくくははりり

居場所のあまぎを引舟かといふ氣を
やめく、あが来いをも吉原ト也と古
流の角と密さぬやうにちつと守て居る
時ハ、眞本あ見えゆふ有自繁昌さるへし。
移り安きハ人々上方にても一以ハ、徳園
町崎の内ハ乃新地々繁昌一。新町崎系
と不系氣ありしが。を以ハ又そろくと解

ハ僻處へ復るあり。名ハ舟にち地りハ
一系斗とさああり。當年の係なごを
初ハ手かきしてかうしかりし。場々地々お
りくきて。役者ハ声色門をざり。何や
似く氣は毒なりといふ有く、乃評判
も有しをりし。病子鷹ぬまや茶ハいや
おを抜独樂をまハ。いろくに志やべ

とけきハ。云切不が古原也。古原が云切不
也。あがおきぬおれがあは。女うらと賣女
のたし。愛。何ぞも撰取せんしゆ十の文。扱あき女
る。あうくと眉とあうめく。やうあ。その時を
糸浪いとなみ烟管えんくわんをえ来し。灰吹はいふをえちくと
教しんあざ笑くと曰。古挫子の編あるまう。似
て志し倭し。されバ古齊こせいあを極くくと見よ。

む乃青ぬ里えぬ。心かうくと身ハあ離し
られ。同。天地の間に生をうへる。あを
まけ那とまけ。村をまけ里とまけ。あを
あを諦あきらずまハあ麟りん中ちゆうあり。いつにも古原ハ
日本第一の控くわ不ふく。女の場ま勝かせせくと
とども。百人が百人。千人が千人。あが
強あと定あくま。あも何なく。細見ほ見み鳴な呼わか

江戸に序子有とく。或、骨若色ひく
老を精そ獅子鼻極尻の類をきにいり
何べ。吉原の女郎なればとて代て
有節有く女を女郎を産はも何べ
後乃中くし泄く極さをあふとあらず。
又岡切雨の女良そくり細立乃由來
合ふもあつて。つくる。雨ハ親兄身 榮冠

榮冠で賣もせは為事ほしのとり
吉原へ竹屋場へ入り皆まはる因縁
づく。能も有悪いとあり。江戸あつた
ぎと旅うかざ旅旨味も遠ハだり何
と地酒かど水の邊とありさうは。吉
原にも練成つと。屋場雨あも美人
あり。又幼少かけれ育テか。芝居好

るまいくさくさ髪かみ容よう質しつ一氣いちきぞうを大切と以もつ詞ことば
又また根ねあり。習しゆい性せいと成なりとしへハ針はり本もと乃なり梅うめ
うけぢの松しょう仕し込こりてふくべれど堯ぎょうの子こ
丹たん朱しゆ不ふ肖せうあり。舜しゆんの子こも亦また不ふ肖せうあり。
三年磨すりても無む患わづらひ子これ思おもく。十じゆ年ねん
考かうてを石いしハ硬かたし。又また終しゆう文ぶん風ふう流りゅうとて
生なまれながく子こ能よまのあり。八はち土ど鳴なりぞく

八はち端たんがけを磯いそ王子おうじかゝ菊きく之の巫まじが出いられむ。古ふる
橋はし中ちゆう丁ていハ板いた屋や根ね津つ音ね羽う菜さい菴あん圃ぼにて
揚よう麦まい妃い西せい施しが有あふも志しれず。扱あ又また尚なほ世よ
不ふ疎そ族ぞく涿たく川せんの風ふう流りゅうある事ことを志しる也なり。
只ただ一口ひとくち小こ罌えい塲じやう所しよとのこえふまへ片かた後ごい
たきりせなり。吉きち原げん乃なり地ち長なが水みづ陰かげり
かゝり。一方ひとがた口くちありとくたをくへはだ

てぎまべりるあづび。深川の世八湯氣了
と偏らず。私乃通語自由に。牡蠣
店の牡蠣文蛤町文蛤。饅饅ハコ
丁に名高く。厚金旗ハ万年丁に
まな。竹子の調味殊屋が酒蔵。二軒
茶屋。二軒は浪らず。引く榮之。塩漬塩漬
焼ざれども銀少。角力あり。岸長あり。

と岸あり。板まあり。本場の園釣うは
た公望を歩とこび。二十之間堂の大矢教
よの巻由基も汗を流す。新地の名り
あく古石場乃人自和ぎ。並々客れ
入船所。遊びの泊を並助を表楼裏
樓。福地やぐ。佃新地中にも古橋中丁
に合巻は君多く。川よは船竿と紐。

陰子の轆車乃屯をある。送るむくいの提灯
と宇治の蜜は花かぶぐとく。茶屋手持
と麻衣を鳴門の博乃者ぐとし。夏毎
の元夜もれやうけく。山海の美味割
を正し。藝者乃調子取常お務りさい
ぎは小奇天下よ熱れし。世上乃女を
羽織着と。サツサヲセく。の浮拍子と

皆は里と始とん。又女帝は氣象をいらぬ。衣
店といへる。匠屋さく。或は意のここの目のと
こけ満く仕内なく。新造袖さめ。度後の
芳流系司長持。取具法をき。抱乃仕立
せ茶屋私者。幸政末社の仕立。紋目の敷
く。着のやりうり。無の二面は責もなく。
同一勸といひをぐ。内遣の者し。み落



く。自然と人のびやうに。鳥象は微塵も
もみほし。今吉原へ押出るとあまう
泣へたりぬあり。是ても是場所と結
一むやと教を赤めく論ドクまじ。麻
布先生莞爾と打笑て曰。此友下の争
ひ空あちりある。名一理なきありとあり
ず。去るがく井丸内の謎大海を志くは。夏

の虫氷を笑入の論あり。史古ちり著一き
は。江に神崎野上の里。大破假粧坂の類。
そ名跡のく今へな。寧治まきる水代の
御惠之。繁茂の地へ都鄙を派くは色里
多きその中。押出する。免許乃地
あり。操者あり。かくしその有。地者有
まんうあり。そあくさいを。傾城湯女。白

人踊子。比丘尼飯盛錦はみ。東宮遊ケ
持チ一舟せんちゆう饅頭たまひの類。小舟おも出さぬ
人て乃知るところなり。近年ミナト提籃ちげんと
緝しつする。持を二びの手軽さちりししを
ト。猫と名付一を化く出るといふ
るありん。又地獄ぢごくといふ名せし。此こゝに
法ほつな事となんといふ。此こゝを企きする

を。第根乃清た美の地獄よりとづきそ。仲る
の者た合羽子。地獄ぢごくくといひあり。今
ト。此こゝ名とは成りし。この名も取
たりと易やすあり。浪なみ節ふしにくと熱あつ持ぢといひ。
伊勢は香羽かほおのりふと走はしりか〇といふ。
古市ふるいちもその河かんも也なりといふ。伊豆は下田しもたも
せんぢりあり。松崎まつざきもくねんが有り。丹

後子志也らなり。越後子ひやづら。冷水れいすい。浮舟うきふね。あせのこ
有り。長門の萩子はぎこかごまじし。下関にこ手
拍たつきとハ船をふね引掛ひかて手てをたたくまづより号ごうく。
肥後ひごふきぢぢ。長崎ながさき子こ。もいもち有り。小
女性おんな有り。伝列でんりつ上うへ田で入りいりべざいあり。松本
子こ張ちやう第だいあり。加賀かが子こ他た多た名な護ご屋や子こ也やら。
出羽でわ奕やく及および小根こね保ほとけ。其初そのはつの女おんな廿ふた歳さい

餅もちを賣うる者もの。其名そのなとけ成なるる。津輕つねがへ小こて
げんががといひ。南部なんぶまでかああらくらくと呼よぶ。
松本まつもとああくく茶ちや鏡かみといひ。尻しり子こといひ
るるあり。其そのままと魅まききといひ。名なと悪あくひ
の差別さべつハあせあせどもども。情なさけを賣うハハ一いっつつににく。極ごく
ささここりりありあり。あありりててハハ粹せいををなくなく。聖せいまま
ああくく。女おんな中ちゆう子こ有ありり。有ありり中ちゆうにに無なくく。其その

と英一きつ面おひも限るに。御一きと
醜みにまが面白おもしろくうぎはめもつゝず。それお意
の樂たのしみふて。撮めづ千魚ちさなうしの石いし葛くわ林はやしをめぐり。鯨くじらの
大海たいかいをかぎり。牡丹ぼたんと花はなあり。野の菊きくも
花はななり。東あづま鸞うづらをあまなちうを樂たのしみむ者ものの
鼻はなのあるをとたせど。愚おろ場ちやう不ふ子こはたら
人ひとの愚おろ場ちやう不ふとま上うへとつ均な吉きち原はらより

も傍たもときりくとある。花はな景けい木ぎの味あじ嗜しよをよる。女おんなの
羽はね織オリと世よの風かぜ俗ぞくを乱みだり。泣なみ先まへ志こころあらずれ
浮う拍はつ子この拍はつ又また風かぜ情じやうあらるをとあるは。是こゝ
園えん場じやう不ふの愚おろ風かぜ俊とよく。又また内うち徒た乃の苦く之の爲ため
く自然しぜんと心こころのむかやうにくく氣き象さうより儼
塵ちんをりやに子こといのほ飽あ魚ぎよの驛いん鼻びとを
是こゝへど。深ふか川がははたらんで深ふか川がは乃の穴あなをあるは。

夫彼地乃女良の輔^{たすけ}智とのりつらつき出あり。
新^{あらた}きにぬりて人乃女房を賣ゆり。
或ハ女帝の身ぞく影子をかくる。系^{けい}身を買
くめつら^を打。掛金百^{びやく}萬^{まん}の下^げ卑^び多^たて
いけとせぬ^を癡^ち人を茶^{ちや}はし。おれあやしく
呼^よ合^ご。一字をさこでりて舟^{ふね}つら。舟^{ふね}の唱^{なご}
舟^{ふね}の耳^{みみ}こむり。亭^{てい}之^の牙^が智^ちりのきん

智。系乃家名と風呂^{ふうりよ}あう^う跡^{あと}り。大工
とあがく^を雨^{あめ}よ^よま^まを^をこ^こり^り。一二三王^{いちにさんおう}
玉^{たま}と名^な舟^{ふね}。涼^{すず}き海^{うみ}りの器^き物^{ぶつ}不^ふと。万
代^{まんだい}不易^{ふいぎ}れ吉原^{きちげん}を^をく^くべ^べ物^{ぶつ}よ^よい^い成^{なり}が^が
し。又^{また}吉原^{きちげん}の意^い之^の廻^{まわ}い^い相^あ違^{ちが}ひ^ひ。初^{はつ}つさ
く^くその目^め乃^のた^た法^{ぽう}。仕^しえ^えせ^せ衣^い羽^は若^わ乃^の
換^か換^かと。古^こ風^{ふう}を^をめ^めも^も易^えぎ^ぎる^るが^が此^{こゝ}比^ひ

の爲さ下あれども。来^み熟^{じやく}の人乃初^{はつ}
所^{しよ}あ^あず。又古^こ拙^{せつ}る^る後^ご後^ご尤^ゆも
る^るな^なか^か。こ^こ色^{しき}も^もま^まと^とは^はし^しき^き
世^せ活^{かつ}あり。今^{いま}昔^{せき}系^{けい}の^の如^{ごと}か^か——と
し^しど^ども^もこ^こ子^こ人^{にん}一^{いつ}勝^{かつ}せ^せり。是^{こゝ}場^ば亦^{また}
ち^ちり^り来^きせ^せる^るま^まり^りと^とし^しど^ども^もお^お十^{じゆ}人^{にん}
小^{せう}過^かぎ^ぎ孟^{めい}子^しは^は所^{しよ}謂^い結^{けつ}楚^そ人^{にん}これ

を^を林^{りん}を^を多^た勢^{せい}に^に云^い勢^{せい}叶^{えつ}ひ^ひや^やさ^さず。
田^{でん}場^{ばう}亦^{また}乃^{なり}惡^{あく}風^{ふう}を^を主^{しゆ}と^とし^しつ^つと^とな^なり
そ^そろ^ろく^くと^と吉^{きち}原^{げん}用^{よう}り^り變^{へん}も^もあり。
か^か——を^をい^いら^らか^か屋^{おく}々^々に^に山^{さん}古^こ塊^{たい}を^を
碎^{さい}せ^せば^ば海^{かい}身^{みん}細^{さい}流^{りゆう}を^を碎^{さい}せ^せず。目^め乃^{なり}
解^{かい}を^をぐ^ぐと^とく^く鏡^{きやう}の^の勢^{せい}を^をぐ^ぐと^とく^く度^た大^{だい}
衣^い色^{しき}の^の取^と也^や務^む負^ふ。六^{りく}十^{じゆ}路^ろ列^{れつ}の^の人^{にん}也

子トヤ差サ万マン野ノ乃ノ物モノ好ヨシ粹セイの粹セイづけ面白
かカ。鈍トシ漢ケンの鈍トシ漢ケン祝イハヒ嬉ヒ——ハのノ茶チヤ茶チヤ友トモ
と一ヒト取トル了ス決ケツ心ココロ。百ヒャク年ネン之ノ二ニ度ドもモ好
せス。猪イノ手テ以ヨリ身ミたタ流リウ生セイ濟ジ皮ヒ鹿カいイが
吉キチ系ケイ。つツ久クぬヌがガ吉キチ原ゲン。花ハナハハ三サン芳ホウ野ノ女メ
郎ロウハハ吉キチ原ゲン。依ヨ雨アメのノ橋ハシをヲ身ミ野ノへヘ極キョク了ス。
即ソク吉キチ野ノ乃ノ様サマなりナリ。因イン坊ボウ不フ在ザイ私シ唱テウ

ごも吉原へ来りたせば速く吉原
乃トヨ偏ヘン妓キなりナリ美ユメとト悪アクひヒわワ子コもモ老ラウく
水ミヅ後ゴ也ヤ也ヤ也ヤ也ヤ

甲午の初蝶 見集山人也

跋

童謡子曰。五尺體カク之尺解トク之。乃
 二尺ハちぎるトクを謹シで按スむるトク子解トク
 が如くちぎるトクはがしきトクえの海參トクり
 葉トクあり。人トクより人トクあり。或ハ新トク五尺
 石射金吉トク也。一皮吉原乃月子

尚きバ。其ヤウ柔ルあらし山屋の豆腐
れどし。我 湯身ユ比ヒ生ナマ嘗シ
りふり中あり。豆腐ハ軟ヤウあらし
しとむじ。拵ハ和クを腐ヒクもじ。
志シハあきキぞもクるク豆腐トよ 膳カ
水ミを入イざれば。練ネ酒リウ乃ノじく米コメ

糶ミ水の如く拵乃ノ苦ク々ク子コ極キョクあられバ。
箸シあ子コ洗セン地チと放ハク子コ似ニしり。糸イト糸イト極キョクあ
せバ火ヒの是コト味アジ自ジ明メイ酒リウ純ジュン矢ヤを忘ワスレ
ざれば酒リウを吞ノドし酒リウ子コ香カれ拵ノ糸イトの是コト味アジ
を并ナラせれば拵ノ糸イト平ヘイ比ヒえ糸イト糸イトを忘ワスレ
とト忘ワスレあらしは云ク糸イト糸イト子コ一イツ角カク乃ノ曲マカ

長

二

子乃りて。能人の長短を志り。今此
 をごまね乃評を著し。彼義士大星
 由良後の歌。祇天おれども。人皆歌
 玉望有り。望と本なり。托へ来あり。
 本を外し。末を内をさる。ことなく。
 身乃分限を志り。く短より托

子バ。一時終業花より。十年を延る
 也いん

安永三年甲午秋七月

内人守ら名子徳



長

三

風來先生著述書目

風來先生文集選

全

野夫論

近刻

虛實山師辨

全

書大觀堂

江戸下谷池之端仲町通り

伏見屋善六

